

平成21年10月10日

ヘルパーステーションだいとう ケアレポート No 18

ヘルパーステーションだいとうのケアレポートNo 18をお届けします。

平成21年の現在までのターミナルケア実施は以下の通りです。

病名	年齢	性別	介護度	利用日数	往診	訪問看護	死亡場所	利用回数	主な活動内容
乳がん	64	女	4	25	○	○	病院	3/日	調理、居室の掃除
肺がん	88	男	1	63	○	○	病院	2/週	調理、ベッドメイク
子宮がん	54	女	支1	12	○	○	病院	2/週	調理、掃除
肝がん	77	男	4	1571	×	○	病院	1/週	清拭、おむつ交換
肺炎	82	男	4	3	○	○	自宅	4/日	清拭、おむつ交換
鳥飼病	63	男	2	16	○	○	病院	4/週	調理、掃除
脳梗塞	79	男	3	147	○	○	自宅	2/週	清拭、おむつ交換
平均	72	—	3	262日	262日→63.7日				
以下は平成18年4月1日以降のデータ									
がん	75.8歳	2.1	354.4日	354.4日→96日					
非がん	86.9歳	4.1	974.9日	—					

在宅でがんばっておられても、いろいろな事情で最後は入院されるケースも散見されます。保険請求上の訪問介護の業務はターミナルケア以外のものと代わりはありませんが、「ヘルパーステーションだいとう だより No 27」の巻頭言で、姫路赤十字居宅介護支援事業所のケアマネジャーの田口かよ子さんからご報告いただいた調理の例一つを引くまでもなく、それぞれのケースで様々なドラマがあることをかみしめています。

平成18年4月1日以降（特定疾病として「末期がん」が40歳から64歳までの2号被保険者への介護保険の対象となった）のヘルパーステーションだ
いとうのデータを下段に示しています。

長期の介護保険のご利用の方（非がんの方）ががんに罹患され、最期は迎え
られる場合は、「ターミナルの期間は6ヶ月以内」の定義を用いれば、平均利用
日数は262日が63.7日に短縮されます。

訪問介護におけるターミナル期の特徴としては、表のがんと非がんとの比較
に見られるように、平均年齢が若いことが挙げられます。これは2号被保険者
にがん患者さんの割合が大きいことが考えられます。

介護度が低いことは、末期がんの場合は比較のお元気な時期から深刻な状況
への変化が急激なため、認定が追いついていないことを表しています。末期が
ん患者等の急を要する認定調査に関しては、姫路市においてもそのあり方を検
討中です。

訪問介護の利用についてもがん患者さんの利用日数が約3ヶ月で、非がん患
者の約1年に比べて1/4の期間です。利用期間が短いことは家族介護で頑張
る可能性も高いことを示唆しています。

がんを中心としたターミナル期の利用者の方については、年齢層が比較的若
く、病状や身体が安定した時期から急激に変化し、その時期も比較的短いこ
とが特徴的です。訪問介護で関わらせていただく私どもはそのことを意識しつつ、
そのことによって引き起こされる利用者やその家族の心情にも留意しながらタ
ーミナルケアにあたりたいと考えています。

そのためには、一般的な訪問介護のスキル以外にもターミナルケアを実施す
るスキルが必要になります。ただし、ホームヘルパーが特別なことをするわけ
ではなく、その人やその人を取り巻く人々の尊厳を大切にしたり、豊かな感性
を伴ったコミュニケーションを用いたりすることがターミナルケアといえます。
利用者の方の答えのある問いには、正しい答えが導き出せるようにお手伝いを
し、答えのない問いには、逃げずにそばに寄り添いながらともに居て、ひとり
ぼっちではないことを感じてもらえるケアに努めます。